

令和6年度 第3回 鳥取市生活交通会議
議 事 要 旨

1. 日 時 令和7年1月10日（金） 10:15～11:30

2. 場 所 鳥取市役所6階 第3会議室

3. 出席者 (下記のとおり)

○会 長	[学識経験者]	鳥取大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻教授	谷 本 圭 志
○副会長	[鳥取市]	都市整備部長	山 根 陽 一
○委 員	[住民・利用者]	市小学校PTA連合会	高 田 好 美
		市自治会連合会 (旧鳥取市、国府町、福部町)	西 原 牧 夫
		〃 (河原町、用瀬町、佐治町)	小 谷 繁 喜
		市老人クラブ連合会 (旧鳥取市、国府町、福部町)	藤 田 祐 治
		市連合婦人会	外 山 照 野
	[NPO法人]	鳥取市社会福祉協議会 地域福祉課長	松 本 美智恵
	[事業者]	日ノ丸自動車株式会社 営業部次長	山 根 真 一
		日本交通株式会社 バス営業部次長	山 本 高 広
		西日本旅客鉄道株式会社鳥取駅長	小 川 修 司
	[事業者団体]	鳥取県ハイヤータクシー協会 副会長	岡 周 一
	[事業者労組]	私鉄中国地方労働組合日ノ丸自動車支部執行委員	
		鳥取分会執行委員長	中 村 和 博
	[鳥取市]	福祉部長	藏 増 祐 子
	[中国運輸局]	鳥取運輸支局 首席運輸企画専門官	大 林 正 明
	[鳥取県]	輝く鳥取創造本部中山間・地域振興局交通政策課長	野 坂 明 正
○事務局		鳥取市都市整備部交通政策課 (宮谷、森本、伊藤、坂本)	
		【欠席】4名	

4. 次 第 1) 開会

2) 議事

【案件1】らっちゃんバスの更新登録及び旅客範囲の変更について

【案件2】さじ未来号の定期券等の発行について

【案件3】大和ふれあいタクシーの経路変更について

【案件4】令和6年度地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価について

3) 報告事項

【報告1】自家用有償旅客運送（福祉有償運送）の登録抹消について

【報告2】2025年4月1日のダイヤ変更について

【報告 3】令和 6 年度鳥取市自動運転バス実証運行について

【報告 4】オンデマンド乗合交通の実証運行について

4) その他

5) 閉 会

5. 議 事 概 要

【案件 1】らっちゃんバスの更新登録及び旅客範囲の変更について

鳥取市社会福祉協議会、福部町総合福祉センターが運行している自家用有償運送の更新登録について協議。

→鳥取市社会福祉協議会、福部町総合福祉センターが資料 1 に基づき説明し合意された。

(質問・意見)

【会 長】ドライバーの担い手の状況はどうか。

【社 協】登録しているドライバーは 5 人で、シフトを組んで運行している。ハローワークをとおして募集しているが、応募は無い状況。

【案件 2】さじ未来号の定期券等の発行について

特定非営利活動法人さじ未来が運行している自家用有償運送「さじ未来号」の定期券等の発行について可否を協議。

→特定非営利活動法人さじ未来が資料 2 に基づき説明し合意された。

(質問・意見)

【委 員】地元の方やユーザーからの声があり導入するのか。

【さじ未来】利用者からのご要望の声があり、それにお答えするかたちでさせていただこうとするものである。

【会 長】頻繁に利用される方が多いのか。

【さじ未来】経常的に使われる方が多い。

【案件 3】大和ふれあいタクシーの経路変更について

大和地区まちづくり協議会が運行する自家用有償運送「大和ふれあいタクシー」について、エスマート鳥取南 IC 店までの路線延長について協議。

→事務局が資料 3 に基づき説明し、合意された。

(質問・意見)

【会 長】さじ未来号も買い物で延長していたと思うが、状況はどうか。

【さじ未来】片足運行ということで、申し込みがあれば1日1往復だけ運行する。主に免許を持たない、車を持たない、家族に頼める人がいないといった方々がよく利用される。

【案件4】令和6年度地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価について

地域公共交通確保維持改善事業に伴う令和6年度の事業評価について協議。

→事務局が資料4に基づき説明し、合意された。

(質問・意見)

【会 長】雨滝・上地線の目標が下回ったのは、児童数が減少したからか。

【事務局】そのとおりである。

【報告①】自家用有償旅客運送（福祉有償運送）の登録抹消について

特定非営利活動法人このゆびと一まれが運行していた福祉有償運送の登録抹消について報告。

→事務局が資料5に基づき報告をした。

(質問・意見)

【会 長】利用者が大幅に減少したというのは、この事業者についてということか、町全体のニーズが減っているということか。

【事務局】聞いている範囲では、事業者の利用者が減っているということ。

【会 長】一般的な理解では福祉有償運送の利用者は増えるというようなことを、よくデータでは見る。仕方がないが、家族の負担が増えているということでもある。個別に案件で出てくるだけなので、例えば、福祉が今どんな状況なのかという全体像のデータとか、福祉有償運送の実態について、運輸支局に集まっているか。

【委 員】年間の利用者数などは、ご報告をいただくようになっている。公共交通機関を利用できなくて、また、介護タクシーなどを利用しづらい方が利用されて、会員登録をして実施するというのが主体になっているので、ある程度限られた範囲を運送というのが多い。そのため、全体として利用者がそんなに増えているということはないとは思っている。介護タクシーも含めて、福祉輸送が増えているかどうかというこ

とであれば増えてはいるのだと思う。福祉有償運送に限って言えば、割と安定していて、逆にお亡くなりなられたりして、会員数が減って、需要がなくなって、辞められるという方もいらっしゃるという状況。

【会 長】おそらく、全体が掴みづらいのかなと思う。福祉タクシーもあれば、家族送迎もあれば、福祉有償もあれば、事業者の送迎もあればのなかで、これにつきましても、担い手不足はどの分野でも同じで、日本全体の問題である。そこが逼迫しているのであれば、普通の福祉有償ではなくて、統合して仕組みが作れないかという議論に至っても良いのではないかなと思うが、データも無いなかでは機運も盛り上がらないし、課題が埋もれたままなのかなと思ったので、何か良い資料があれば、またこの会議でもご披露いただければと思う。

【委 員】福祉は、独居で要介護がいくつ以上でないと対象にならないケースが多い。ところが、要介護は受けてないけど、お困りの方は随分という。身体障害者、精神も含めて、何級以上という条件を、条例的にある程度緩和はできないのか。できないのは国の補助が対象だからで駄目だというならそれまでだが、その辺の行政の反応を聞いてみて欲しい。

【会 長】福祉の話で、お答えできることはあるか。

【事 務 局】こういったものが要介護の方が使えるのかは、おそらく、一律の基準で、市だけではできないことが多いかと思う。

【会 長】確かに国の制度で決まっているものがある一方で、交通に関しては、あえてルールを緩和することもできたりする。例えば、鳥取市ではないが、タクシー補助しますというときにスパンと決め切るのではなくて、ルール緩和する部分をある程度作っておくなど、そういうやり方はいろいろある。福祉でできるかどうかは全く別問題だが、福祉の話も部分的に我々も知っておかないと、いい連携はできないと思う。今のようなご意見もあるということで、勉強していただければと思う。

【報告②】2025年4月1日のダイヤ変更について

2025年4月1日のダイヤ改正（稲葉ヶ丘線の減便）について日ノ丸自動車(株)が報告。

→日ノ丸自動車(株)が資料6に基づき報告した。

(質問・意見)

【会長】「県」と書いてあるのは、県庁回りということで、サービスとしては手厚い方が残るのか。

【日ノ丸】そのとおりである。

【報告③】自動運転実証運行の取組状況について

中心市街地において実施した自動運動バスの実証運行の実証結果と今後の取組方針等について報告。

→事務局が資料7に基づき説明した。

(質問・意見)

【委員】22日は雪の都合で運休となっていた。砂丘のときは雪が相当積もって、障害で止まっていたが、22日はそんなに降っていなかったと思う。鳥取は今日のように雪が降る時期がある。実際走らせた方がよかったのではないかと思ったがどうか。

【事務局】当日はセンサーの具合が悪かった。積雪ではなく、降っている雪で安全を考慮して走らなかった。

【会長】実証の結果を踏まえながら、また技術開発をしていただけたら。やはり雪はある程度クリアしてもらわないと鳥取では厳しいのかなと思う。

【委員】速度が遅い分、渋滞になることはなかったか。

【事務局】砂丘のときの車両と違い、時速35キロぐらい出るので、街中であれば渋滞を起こすことはない。

【会長】このルートであれば、時速35キロとか40キロぐらいあればよいが、場所が変わると渋滞が生じるリスクも恐らくあるのだろうと思う。時間はかかりそうだが、着々と進めて、できれば鳥取市で事業者にメリットがある形で実走できるといいと思う。

【報告④】オンデマンド乗合交通の実証運行について

オンデマンド乗合交通の実証運行について、実施状況や今後について報告。

→事務局が資料8に基づき説明した。

(質問・意見)

【委員】私は地区会長をしている。この件は区長会を通じて話があった。利用者を増やさないといけない、若い人だけではなく近所の年寄りも利用しなければと再三私は申し上げた。私自身もよく利用するが、私でもアプリの申し込み予約が非常に難しい。明日のことを予約しようと思って今日の予約をして間違えましたというケースもある。お年寄りにいらっしゃると思うが、「050」の電話番号は、若い人から「050」は危ない番号だから使うなと言われることもある。なんとか簡単にならないものか。WILLERという全国ベースの会社に依頼しているため、鳥取だけ特別なアプリは難しいと思うが、このままだったら何人かのリピーターが使うだけで、裾野が広がらない。例えば、「050」ではなく、鳥取市の「0857」で、市役所のコールセンター経由とか考えられないか。今、米里、倉田、美保エリアで、拡大する地区においては半分の運行範囲しかないから宣伝は積極的にできないと拡大地区会長も公民館も話していて、結局、何とか増やそうとしているのはこの地区くらいではないか。これはどうなのかとを感じる。去年のとりモビが、こういう形で継続しますという姿を、確立してもらわないといけない。先週、深澤市長の新春インタビューで、とりモビを拡充、あるいはエリアを広げたいとはっきり申し上げていた。これはやはり、石破総理の地方創生といろいろ関係もあろうかと思うので、ご配慮願えたらありがたいと思う。

【会長】確かに「050」の話は、そういうふうに捉えられることもあり得ることだと、勉強になった。コールセンターは人件費がかかるので専用は無理だと思うが、何かと一緒にして、単純に転送で済むのであれば転送するのもあるでしょうし、例えばスマホ教室をもっと拡充するという方法もある。いくつかテーマがあると思うが、いずれにしても、実証をやりながら、利用者側の意見を聞きながら、事業者とできる範囲でバージョンアップしていただいたらありがたいと思う。

【委員】子どもが夜に塾へ通ったりするのに、とりモビをよく利用している。見てみると、南中学校なども使ったらいいのと思う。例えば、今日のような日の朝とか、親が送っていくことになるので、バスを使えばいい話だが、それこそ倉田の子たちとか長い距離になる子が1人でも乗れて便利なので、利用開始の8時が10分でも早く使えたらいいなと思った。便利に活用させていただいている。

【会長】バス事業者に影響がない範囲でというのが難しいが、そういう埋もれたニーズを発

掘に乗っていただくのは、大事なことだと思う。基本的には、このサービスはご好評いただいているということで、採算は頑張らなければいけないが、あたたためて実施していただきたいと思うし、今のお二人のご意見もそうだが、いろんな改善の余地もあったりすると思う。ぜひ、来年度も国の支援もいただきながら、進めていただければと思う。